

## 4. 医療の質・安全にかかるマネジメント能力強化事業

国立研究開発法人 国立国際医療研究センター（NCGM）

### 【現地の状況やニーズなどの背景情報】

ベトナム国では、2013年の保健省の通達により、各病院にクオリティ・マネジメント課が設置されている。しかし、同課の構成員の経験は浅く、どのような取り組みから始めたらよいか手探りの現状である。

### 【活動内容】

医療の質・安全にかかる本邦研修を実施する。日本の医療には、世界にも評価の高い日本の品質管理の文化と技法を取り入れた医療の質・安全の取り組みの知見と経験がある。

### 【期待される成果や波及効果等】

ベトナム国では、医療の質・安全の確保に中核的に取り組むことが期待されるクリティカル・マスの育成が望まれている。本事業では昨年度に引き続きクリティカル・マスの育成に協力する。

### ＜研修実施結果＞

研修期間：6月18日-7月1日

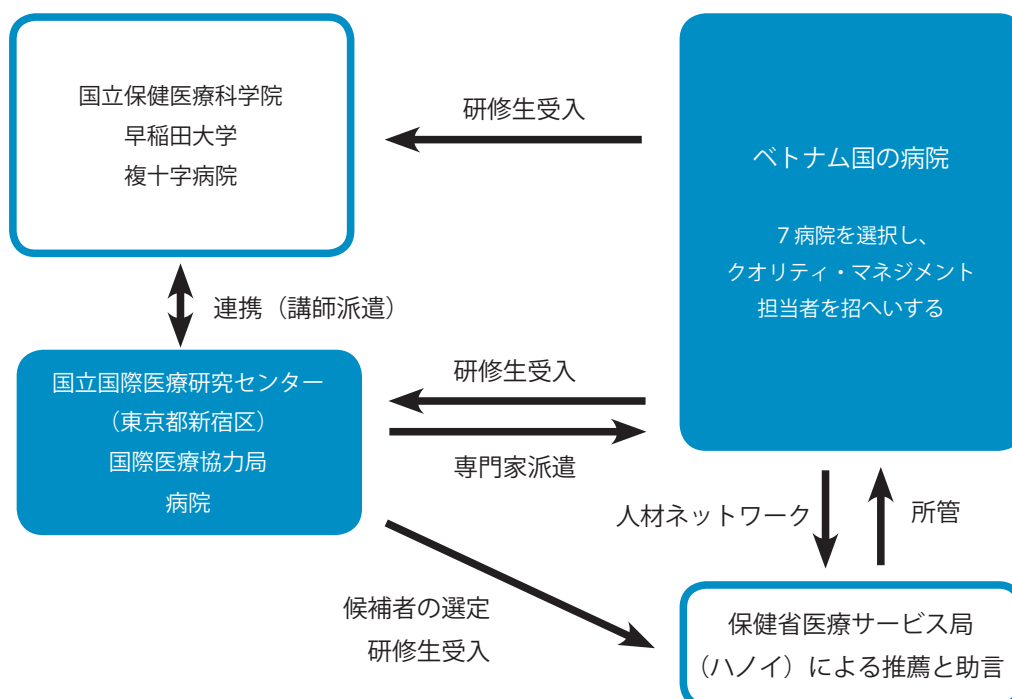
研修生受入（7名）

研修内容

- ・医療の質・安全
- ・クオリティ・マネジメント
- ・ヒューマン・ファクター
- ・日本の医療機関における医療の質・安全の取り組み事例紹介

### 専門家派遣

- ・事前調査（2回、延4名）
- ・現地フォーラム9月末（1回2名）
- ・終了時調査（1回、2名）



- ・「我が国（日本）の公的医療保険制度についての経験の移転」や「先端医療についての技術移転」等を**着実に**実行する。
- ・急速な医療技術の進歩を経験するベトナム国では、**卓越した医療を提供するのみならず、確実な医療を提供する仕組みづくりが急務**である。
- ・本研修では、ヘルスケアの質と安全の確保に取り組む事が期待される保健スタッフの育成を目的とする

※保健スタッフ＝病院質管理部の部長・副部長（医師）

保健省の担当官（医師等）

**クリティカル・マスの育成**  
質・安全の観点で医療システムを改革する担い手

ベトナム国の医療の質・安全にかかるマネジメント能力強化事業について報告いたします。我が国を含む先進国では、医療技術の進歩に伴い、医療現場で医療事故が発生するリスクを高めてきたと言われています。現在、急速な医療技術の進歩を経験するベトナム国でも同様のリスクが高まっています。ベトナム保健省は、医療の質と安全を確保するために病院に質管理部を設置する通達を出しました。しかし、草創期の質管理部ではどのような活動をしたらよいのか分からずまだ手探りの状態でした。本プロジェクトでは医療の質・安全の確保に取り組むことが期待される保健スタッフの能力強化と、医療を質の観点から改革していく担い手、即ちクリティカル・マスの育成を支援しました。

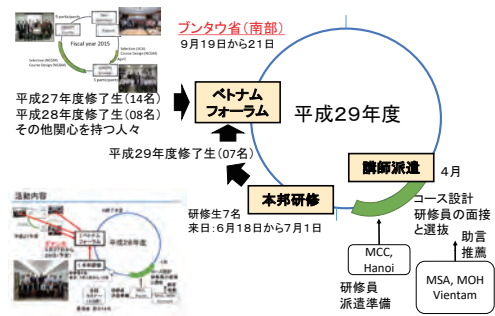
#### 本事業の成果のハイライト

1. 修了生は、医療の質・安全の考え方と取り組みを体系的に学び、日本の病院とベトナムの病院の具体例を知ったことで、自信をもって取り組めるようになった。→ インシデント報告システムの改善、5S活動の導入等
2. 修了生（クリティカルマス）によるネットワークが形成され、修了生間の自主的な学びが盛んになった。
3. 現地フォーラムの開催により、病院スタッフも医療の質・安全の取り組みの具体例を知ることができ、院内で協力が得られるようになった。自信が持てるようになった。
4. 3年間にわたる現地フォーラムは、ベトナム全国の49病院を巻き込み、医療の質・安全の取り組みがベトナム全国へ広がる支援となった。
5. 本事業の本邦研修と現地フォーラムがきっかけとなり、修了生と医療の質・安全に関心を持つ人々が影響あい、病院の取り組みに相乗効果が得られている。

本事業によって、本邦研修の修了生は、医療の質・安全の考え方と取り組みを体系的に学び、日本の病院とベトナムの病院の具体例を参考に検討したことで、自信を持って医療の質・安全の確保に取り組めるようになりました。これを支えるのは、修了生同士が形成した情報交換のネットワークです。本邦研修中から修了生は自主的に経験共有と相互学習を進めていました。

修了生の帰国後は、現地フォーラムを開催したことにより、フォーラム参加病院のスタッフも医療の質・安全の取り組みの具体例を知ることができ、参加者は院内での協力が得られやすくなったとも聞いています。この現地フォーラムはこれまで3年間にわたり開催してきましたが、今年度はベトナム全国から49病院を巻き込み、医療の質・安全の取り組みをベトナム全国へ広げることにも貢献しました。医療技術等展開推進事業の本邦研修と現地フォーラムがきっかけとなり、修了生がベトナムの病院で医療の質・安全の活動に取り組みながら、周囲の関心を持つ人々にも影響を与えるという相乗効果が得られています。

#### 活動内容



本事業では、本邦研修、現地フォーラム、そして保健省主催の医療の質・安全研修への講師派遣の3つの活動を行いました。現地フォーラムは過去3年間の修了生が議論する機会でもありました。



#### 本邦研修『医療の質・安全』

平成29年6月19日（月）－30日（金）

研修生7名（7病院から）

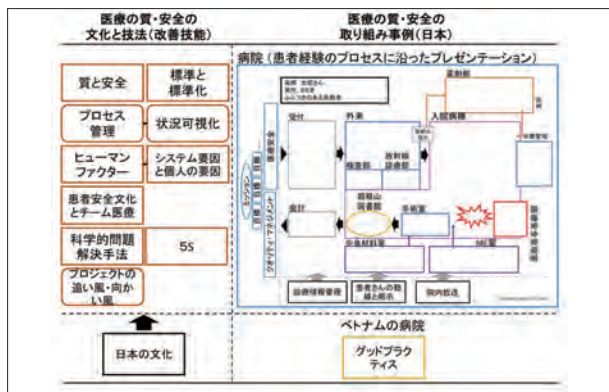
#### 本邦研修の目標

1. 医療の質・安全の文化と技法（改善技能）を学ぶ
2. 日本の医療の質・安全の取り組み事例から医療の質・安全の文化と技法の適用例を知る
3. 上記を参考に、自身が所属する組織の医療の質・安全の取り組みと体制をどうすればよいかを考える

#### アウトプット

アクションプラン

1つ目の活動である本邦研修では、(1) 医療の質・安全の文化と技法を学び、(2) 日本の取り組み事例から医療の質・安全の文化と技法の適用例を研修生が知る機会を設けました。本邦研修のプログラムで特徴的だったのは、(3) これら2つの知見を参考にして研修員が所属する病院における医療の質・安全の取り組みをどのようにしたら良いかを検討したことです。



研修内容も研修目的と同様に作成しましたが、NCGM の利点を活かして、似た内容の理論と実践例はなるべく同日に学べるように研修プログラムを工夫しました。



こちらは病院を見学した時の様子です。病棟、透視室、医療安全パトロール、外来、手術室など、様々な部門を見学しました。学びを深めるために薬剤部を例とした 5S の演習、インシデント事例の寸劇、根本原因分析、チーム医療の演習など、体験を通じた学びの機会を多数取り入れました。

## 研修員の反応 (4段階評価) 5月研修は5段階を4段階に換算

|                                        |                        |                   |                  |                         |
|----------------------------------------|------------------------|-------------------|------------------|-------------------------|
| 1. 研修目標を達成したか？                         | n=5人                   | n=9人              | n=8人             | n=7人                    |
| 研修内容の業務への応用可能性は、 <b>全員が活用、応用できると回答</b> | H27.5月研修<br>3.7点       | H27.11月研修<br>3.3点 | H28.7月研修<br>4.0点 | H29.6月研修<br><b>3.4点</b> |
| 2. 研修デザイン                              |                        |                   |                  |                         |
| ・プログラムデザインの適切さ ※1:期待充足度で代用             | H27.5月研修(満点)<br>4.0点*1 | H27.11月研修<br>3.8点 | H28.7月研修<br>4.0点 | H29.6月研修<br><b>4.0点</b> |
| ・講義の質の高さと理解しやすさ                        | H27.5月研修(満点)<br>3.8点   | H27.11月研修<br>4.0点 | H28.7月研修<br>4.0点 | H29.6月研修<br>3.9点        |
| ・テキストや研修教材に満足したか                       | H27.5月研修(満点)<br>3.8点   | H27.11月研修<br>4.0点 | H28.7月研修<br>4.0点 | H29.6月研修<br>3.9点        |

## 研修員の反応 (4段階評価) 5月研修は5段階を4段階に換算

|                         |                      |                   |                  |                  |
|-------------------------|----------------------|-------------------|------------------|------------------|
| 2. 研修デザイン(つづき)          |                      |                   |                  |                  |
| ・研修員の経験から学ぶことができたか      | H27.5月研修(満点)<br>質問なし | H27.11月研修<br>3.6点 | H28.7月研修<br>4.0点 | H29.6月研修<br>3.4点 |
| ・視察や実習など直接的な経験を得る機会     | H27.5月研修(満点)<br>質問なし | H27.11月研修<br>3.2点 | H28.7月研修<br>4.0点 | H29.6月研修<br>3.0点 |
| ・討議やワークショップなど主体的に参加する機会 | H27.5月研修(満点)<br>質問なし | H27.11月研修<br>3.3点 | H28.7月研修<br>3.5点 | H29.6月研修<br>3.1点 |

## 研修員の反応 (11月は9名、5月は5名)

|                                                        |                      |                   |                  |                  |
|--------------------------------------------------------|----------------------|-------------------|------------------|------------------|
| 3. 目標達成のための適切なファシリテーション                                | H27.5月研修(満点)<br>3.8点 | H27.11月研修<br>3.8点 | H28.7月研修<br>4.0点 | H29.6月研修<br>3.7点 |
| 4. 日本の社会的・文化的背景を理解できたと思いますか                            | H27.5月研修(満点)<br>質問なし | H27.11月研修<br>3.0点 | H28.7月研修<br>3.1点 | H29.6月研修<br>3.3点 |
| 5. 改善を要する点(研修員全体の意見)                                   |                      |                   |                  |                  |
| ・講師および研修員同士の意見交換の時間がもっとほしい。(いくつかの講義は講演型で研修員が参加できなかった。) |                      |                   |                  |                  |
| ・基礎知識が少ない研修生がいて、意見交換の際に議論が深まらないことがあった。                 |                      |                   |                  |                  |

このような研修を研修生はどのように評価したのか、研修生の主観ではありますが、アンケート調査を実施しました。2017年度の結果は、表の青色の列にある6月研修の欄です。7名全員が研修目標を達成し、「研修内容は業務に応用できる」と回答しました。個別には、研修プログラム、講義の質の高さ、テキストに関して満足度が高くなっています。

改善点としては、意見交換の場がもっと欲しいことや、研修員の理解度を選出時点で揃えることなどが挙げられました。

## 研修員の反応

### 6. 研修の良かった点(研修員全体の意見)

- 理論と見学がうまく組み合わせられ、研修の組み方がベトナムの現状および研修員のニーズに即していた。たいへん合理的な内容であった。
- 講師は教え方、伝え方を熱心に工夫してくれた。
- 医療安全体制について、研修前までははっきり理解できていなかったが、研修で具体的に学べたため、帰国後すぐに導入できる。
- チームの役割はベトナムではまだ重視されていないため、これからの医療安全体制づくりに役立てたい。

### 7. 要望(研修員全体の意見)

- 医療の質に関する具体的な改善方法等の理解を深めるためにも、研修生が専門とする診療科をNCGM病院で見学できるとうい。

良かった点として、「医療の質・安全の理論と実践の見学がうまく組み合わせられ、ベトナムの現状と研修員のニーズに即しており、大変合理的だった」との評価をいただきました。要望として、「医療の質・安全をより理解するために研修員が専門とする診療科の見学」を希望する声がありました。



## 現地フォーラム

『第3回ベトナム病院の質・患者安全フォーラム』

会期：平成29年9月19日(火)～21日(木)

参加者数：247名(うち修了生は25名/29名)

### 現地フォーラムの目的

1. 病院の医療の質・安全の取り組みの経験から、達成できたことと課題を共有すること
2. 病院が課題に取り組むために実際の解決方法を議論すること
3. 本邦研修生とベトナムで医療の質・安全に関心を持つ人々とのコミュニケーションを促進すること

### 参加者 計247名

1. ベトナム49病院のクオリティマネジメント担当者、保健省等
2. 日本の医療機器メーカー4社(医療機器展示)
3. JICA: ベトナム「チョーライ病院プロジェクト」、「新卒看護師のための臨床研修制度強化プロジェクト」、ラオス「保健医療サービスの質改善プロジェクト」の第1回ラオ・フォーラム運営委員会

17

我々はアンケートの評価が帰国後の実践に結びつくのかに関心がありました。そこで、研修生が帰国後に病院でどのような実践を行ったかを研修実施側と修了生が知るために現地フォーラムを開催しました。2017年度は第3回目の現地フォーラムであり、9月に2日間の日程でベトナム南部のパ・リア病院にて開催しました。

このフォーラムでは、実践していなければ発表する題材がありません。そのため、これまでの修了生が発表や議論に参加するかが研修後の実践の有無を確認する役割を果たしました。

ブレイクアウトとして、2つの病院で見学ツアーを実施しました。ツアーを通してフォーラム参加者がお互いを知ること、翌日のフォーラムの議論が大いに盛り上がりしました。参加者の内訳はスライドの通りです。

## 現地フォーラムのプログラム

1. 病院ツアー(フン・ボン病院、ツー・ズック郡病院)  
病院の医療の質・安全の取り組みを見学。
2. 取り組み発表とパネルディスカッション(パ・リア病院)
  - ① 保健省による政策のアップデート
  - ② どうやってインシデント報告システムを機能させるか
  - ③ どうやって5Sを効果的に導入するか
  - ④ 標準手順書を効果的に活用するにはどうするか
  - ⑤ 質管理部(QMD)の役割は何か? 院長と保健局の支援?
  - ⑥ 患者安全文化を醸成するにはどうするか?
  - ⑦ 病院の質管理に情報システムをどう活用するか?
3. 日系企業による医療機器の展示(4社)
4. ベトナムフォーラムの今後(修了生による会議)

現地フォーラムで議論されたのは、ここに示す7つのテーマです。これらは修了生が病院の優先課題と考えたものです。また今回は、49病院が一堂に会する機会を利用して日系企業による医療機器の展示も行いました。

### 日系企業による医療機器展示(4社)

| 企業名                    | 展示内容                                                          |
|------------------------|---------------------------------------------------------------|
| 株式会社 アベレ               | ビリアルペンメーター等                                                   |
| アルフレッサ                 | 大研医器(株)製 ディスポーザブル吸引器(Firfix, Qinpot)                          |
| クローバープラス               | 株式会社スズケン、フクダ電子株式会社、ティアック株式会社、日本シグマックス株式会社、株式会社アベレ各社の医療機器の展示紹介 |
| ニプロ株式会社<br>ニプロファーマ株式会社 | 一般看護関連、透析関連、血糖測定機関連商品、注射剤、経口剤、外用剤などの医薬品                       |

日系企業は個々に示す4社の協力が得られました。医療の質・安全に関心のある49病院の方々が日本の品質と安全性の高い医療機器に触れる機会でした。日系企業からは「このような場を今後も設けてほしい」、「何が売れそうで、何が売れなさそうかがよく分かった」、「ベトナムの多数の病院とつながりができた」と嬉しい声をいただきました。

### 現地フォーラム(パネルディスカッション)



病院ツアー(ツー・ズック病院)



企業ブース(血圧計、心電図解析)



現地フォーラムはこのような様子で行われました。

## 本事業がベトナムの医療の質・安全にもたらした変化

1. 修了生は医療の質・安全分野の**クリティカル・マス**として活躍し、自身の病院及び他の病院へも影響を及ぼしている。→ **26名の修了生が208名に影響を与えた。**
  - ① 病院 **インシデント報告件数の増加**、インシデント報告システムの運用の仕方を本邦研修および研修生同士の交流で学び、病院で運用し始め、運用できるという自信が養われた。
  - ② 5S→全職員を対象に研修を実施。**職員全員が5Sの必要性、利点を理解し、病院全体で取り組めるようになった。**
  - ③ その他の改善事例→詳細はフォーラム資料集(英語版)を参照
2. 自主組織『**病院の質・患者安全クラブ**』が修了生によって設立された。今後のベトナムフォーラムの実施母体となる予定。
3. 日系企業との連携により、日本の医療機器メーカー(4社)がベトナムの病院と医療機器販売をする契機となった。→一時に49病院とつながり、ニーズの把握

本事業によって、修了生はベトナムの医療の質・安全の分野でクリティカル・マスとして活躍し、自身の病院および他の病院へも影響を及ぼしています。具体的には、インシデント報告システムの運用の仕方を本邦研修や研修生同士の交流で学び、病院で運用し始めました。5Sでは、病院の全職員を対象に研修を実施した結果、職員全員が5Sの重要性や利点を理解し、病院全体で取り組めるようになりました。

また、自主組織「病院の質・患者安全クラブ」が設立され、今後のベトナムフォーラムの実施母体となる予定です。

そして日系企業との連携により、日本の医療機器メーカーがベトナムの病院に医療機器を販売する契機ともなりました。

## 成果指標

| アウトプット指標、プロセス指標                             | 指標の種類   | 活動成果              |
|---------------------------------------------|---------|-------------------|
| 本邦研修の実施                                     | 介入      | 1回(10日間)実施        |
| 本邦研修の研修員満足度                                 | 介入      | 全9項目が3点以上(4点満点)   |
| 医療の質・安全の取り組みの発表・議論に参加した修了生数                 | 継続      | 24名/29名(全3年)      |
| 経験共有機会への自主的参加者数                             | 波及効果    | 前年比2.4倍(232名/97名) |
| 現地機関主催の研修への講師派遣                             | 現地の主体性  | 1回(保健省主催)         |
| アウトカム指標                                     | 指標の種類   | 活動成果              |
| 習熟した技術に基づいて質改善活動を実施している修了生の人数               | 継続      | 29/29人            |
| インパクト指標                                     | 指標の種類   | 活動成果              |
| クリティカルマス集団を中心に、ベトナム全土で医療の質・安全に係る取り組みが継続される。 | 波及・継続効果 | 医療の質・患者安全クラブの発足   |

成果指標は、スライドの通りです。本事業の目的である、医療の質・安全の取り組みが期待される保健スタッフの能力強化と医療の質の観点から改革していく担い手となるクリティカル・マスの育成を行えました。今後、本事業に続く医療の質・安全の取り組みがベトナムに大きな動きをもたらして展開する足掛かりになったと考えます。

## 本事業がもたらした隣国ラオスでの変化

- ・ベトナムフォーラムを視察した運営委員会メンバーがJICAの協力の下、『第1回ラオス保健医療の質改善フォーラム』を開催した(2018年2月13日-15日)。



- ・ラオス保健省と南部4県では、ベトナムに医療の質・安全を学ぶ意識が高まっている。
- ・ラオスの学ぶ姿勢に応じて、ベトナムの修了生の中で、医療の質・安全の取り組みを推進する意識も高まりを見せている。

本事業はベトナム国内に留まらず、隣国ラオスにも変化をもた

らしました。「ベトナム病院の質・患者安全フォーラム」を視察したラオスの人々によって、ラオスではJICAのQHCプロジェクトの支援のもと「第1回ラオス保健医療の質改善フォーラム」が2月に開催されました。ラオスの学ぶ姿勢に応えるかたちで、ベトナムの修了生も、医療の質・安全の取り組みを推進する意識が高まるという良い影響をお互いに及ぼし合っており、今後の展開が期待されています。

## ベトナムの病院の医療の質・安全の取り組み(英語版)

国際医療研究開発費(開発途上国における医療の質・安全の取り組みの連携の可視化に関する研究(主任:仲佐保))『27(第2)』との協力

### 平成27年度の取り組み 平成28年度の取り組み



仲佐保先生主任の研究班の協力により、これまでベトナム語でしか把握できなかったベトナムの病院における医療の質・安全の取り組みが整理されました。様々な開発パートナーがベトナムで比較的新しい分野である医療の質・安全に介入するときに、ベトナムの現状を知る資料になると思います。

## ベトナムの病院の医療の質・安全取り組みを推進するための更なる課題

医療の質・安全の取り組みを院内で組織的に推進するには、**質管理部と医療の質・安全ネットワークの連携強化が次の課題**となっている。この連携の確立には、院内の各部署に配置される**看護師の果たす役割が大きい**。日本では看護師が組織横断的に活躍しているが、ベトナム国では**看護師の果たすべき役割がまだ明確ではない**。

連携の強化には、**看護師のマネジメント能力の強化**に加えて、日本等海外の先行事例を参考としながら**質管理部と看護師がどう連携を図るか検討すること**が不可欠である。



49病院のネットワークを活かし  
次期案件へ

本事業では、ベトナムの病院の質管理部の部長・副部長の能力強化を進めてきました。しかし、この取り組みを院内で組織的に進めるには、質管理部と医療の質・安全ネットワークとの連携強化が不可欠と考えます。この連携の確立には、院内の各部署に配置される看護師の果たす役割が大きく、医療の質・安全分野で院内の組織横断的な連携を推進するには、看護師のマネジメント能力の強化を進めていく必要があると考えます。この課題は次期案件につなげていきたいと考えています。ご清聴いただきありがとうございました。